

留 学 報 告 書

平成 27 年 9 月 8 日

学 部 生物資源科学部 学科・課程 生物科学科

氏 名 小泉 恵太郎

※ 留学先大学での成績証明書を添付すること。（島根大学に直接送付される場合はよい）

1. 留学先大学・学部 国名 大韓民国

大学名 国立慶尚大学校

現地到着日（ 2014年 8月 28日） 授業開始日（ 2014年 9月 1日）

現地出発日（ 2015年 8月 28日） 授業終了日（ 2015年 6月 16日）

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

島根パスポートセンターでパスポートを発行し、広島の韓国領事館でビザの申請をした。ビザの発行等は時間がかかるためにできるだけ、ゆとりをもって早めに行った。また、保険の加入は大学の案内に従って日本で行ったが、現地でも可能であった。その他、渡航手段などを決め、予約しなければならないものに関しては、事前に予約を取った。あらかじめ5万円分を日本円から韓国ウォンに変換しておいた。あとは、海外旅行に行く場合必要と思われるものを揃えた。

3. 自宅から留学先大学までの交通手段（乗物の種類、乗り換え地、所要時間）

実家の宮崎から両親の車に渡航に必要な荷物を持って、博多国際ターミナルまで高速で行った（約3時間）。博多国際ターミナルからは、高速船コビーに乗船し、プサン国際ターミナルまで行った（約3時間）。プサンで一泊し、翌日、ササンバスターミナルから高速バスでチンジュ市高速バスターミナルまで行った（約1時間30分）。そこからタクシーで20分程度で大学に到着した。私の場合は、現地に知り合いの韓国人がいたために、韓国からは移動を手伝ってもらった。そのために道に迷ったりすることはなかったが、大きな旅行鞆を持つての移動は大変なので大学の寮の住所がわかり次第、郵送してもらうことが、勧めである。

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

バディ制度というものがあり、韓国人が一人つき、さまざまなことを手伝ってくれるため、自分でしなければならない手続きは何もなかった。また、わからないことがあれば、海外協力課の先生に相談すれば助けてくれた。日本語が話せる先生がいるために、何でも相談することができた。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

留学生へのオリエンテーションには、バディとともに参加する。説明は韓国語、英語、中国語で行われたために、内容を完全に把握することはできなかった。また、英語は中国語のパンフレットが配布され、英語のパンフレットを受け取った。内容は大学の施設についての説明や安全管理等についての説明であり、保険の加入についてもこの時に説明があった。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

授業は、日本とほとんど同じような形態であるが、ネットで受講する授業があった。中間や期末試験の日のみ、教室に行き試験を受ける。

試験は専門か否か、また教授のやり方によってさまざまな傾向があると思う。マーク式から記述、論述式など幅広いが、外国人であることを考慮してもらえるために、真剣に授業に取り組みば、単位を落とすことはない。

また、韓国は日本に比べチームで取り組む課題が多かったように感じる。実験などのレポートをチームで作成し提出するものがあつた。この時は、韓国語で議論をすることになる。また、必要なスキルとしては、パソコンをハングルでタイピングする技術である。レポート等はほぼすべてパソコンで入力しなければならないためである。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

一般教養の科目では、日本文化の理解や漢字の理解など、自分に馴染みのあるものから始めることを勧める。いきなり専門用語ばかりの科目を勉強しても、それらの単語は日常会話で使用する頻度が極めて少ないために、語学力の向上に繋がらないためである。韓国語の授業は必須であり、また、韓国文化の理解等の

授業の受講することを勧めたい。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

留学先では最初の半年は必ず寮でなければならない。寮は値段によって4種類ほどあり、2人部屋、3人部屋、4人部屋になっている。また、シャワー、トイレ、洗濯などが共同であるところは、価格が安い。寮の支払いは、学期と学期間の休みごとに区切られる。その都度、寮の申請をし、引っ越しをしなければならない。授業期間の1学期でおよそ10万円程度であり、寮は食事を一日3食2食1食、なし、から選択可能で、それにより、料金変動する。

BTL棟は最近にできた寮で、お勧めである。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）

生活の注意点は日本と同じであり、最低限のマナーを守れば良いが、ルームメイトの行動によって問題が生じることがある。ルームメイトは韓国人でない場合がほとんどで、多くの場合、中国人やインド人である。会話が英語でしか通じない場合がしばしばあり、意思疎通が難しい。

寮は夏休み期間など建物によっては閉鎖されるが、全ての寮が閉鎖されることはない。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

（どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等）
大学内の農協で口座を作り、日本から振り込んでもらった。韓国では現金よりカードで支払うことが多く、学生証と銀行のカードが一緒になっている。現金を沢山持ち歩くよりはカードを持ち歩くことを勧める。
韓国の物価は、日本とほとんど同じであるために使いすぎには注意。

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

困ったことがあれば、本部棟2階にある課に行けばよい。銀行などもそこにある。

寮の申請は寮の管理棟が別の場所にある。

あとは図書館、語学院、自分の学部棟、教養棟など、少しずつ覚えればよいと思うが、校内がとても広いために、初めに校内を回り、大体の位置を覚えるとよいと思う。

12. 現地案内（買物，銀行，レストラン，理髪店，美容院等の様子）

ほとんどの物は、大学内にある。また、大学前にもお店が多い。

大型ショッピングセンターは市内へ行かなければならない。移動手段はタクシーかバス。

寮では布団と枕がないので最初は買いに行かなければならないが、その時は、市内に行く必要がある。E-martなどに売ってある。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

大学のホームページを見落としており、寮の申請を期日以内に出来ず、住むところがなくなった。その時は、海外協力課の先生に相談し、何とか寮を取ってもらえた。ホームページは韓国語でしか案内がないために注意してみておかなければならない。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか，保険等はどのようにしたか）

オリエンテーションの時にも説明があるが、病気等になった場合は大学内にある保健室を利用するか、大学の付属病院を利用する。また、大学前にも皮膚科などのいくつかの病院がある。大学内の保健室は、無料で検診できるために、軽い症状の場合はそちらに行くことをお勧めする。

15. お世話になった方々

学生、教授、地域の人など

16. 留学先国内旅行について（場所，手段，費用，旅行社等）

ネイルロという日本でいう青春18切符を購入し5日間の旅行を2度行った。ネイルロは5日券と7日券があり、ホテルの割引サービスなどがあるために便利である。KTX以外のコリアレールを利用可能であるが移動に時間がかかる問題点がある。バスでの移動は便利であるがトイレがないために電車での旅を選択した。

1回目の旅行ではスンチョン、ジョンジュ、ボリョン、テジョン、テグを観光し、2度目はポハン、ギョンジュ、プサン、ミリャンを観光した。

せっかくの韓国留学なので、できるだけ旅行などに行くことを勧める。

17. 気候と服装について

日本と大体同じである。冬は、時々雪が降る。気温はマイナスになることもあり寒いので、防寒対策が必

要。6月は日本と同じように梅雨がある。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品、衣服、食品、薬、運転免許証等）

特別に必要なものはないと思う。海外旅行に行くときに必要な荷物を持っていき、後から必要なものがあるらば、郵送で送ってもらえばよい。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書、旅行案内書を含めて）

韓国語の本

20. ホームステイの依頼方法

ホームステイはバディもしくは、友達の家に行けばよいと思う。自分がホームステイしてみたいと思うならば、自ら直接お願いすることが一番の方法でないかと思う。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往) _____ 5万 円, (復) _____ 円
2) 準備費用	_____ 8万 円
3) 大学へ納入する費用	_____ 0円
授業料（年間合計）	_____ 0円
保険等その他の費用	_____ 10万 円
4) 住居費（光熱費等含む）	_____ 40万 円
5) 衣服代, その他雑費	_____ 10万円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等	_____ 5万円
7) 留学先国内旅行費用	_____ 10万円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額	_____ 100万円
現地通貨 _____ 日本円換算 _____ 円	

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

大学内の郵便局から実家にEMSで郵送した。

23. 留学して得たこと（全般についての感想文）

私が1年間韓国に留学して得たことは、とてもたくさんありました。今、振り返り、やはり大学生時代のこの時期に留学にあって正解だったと思います。社会人ではできない、学生同士の交流は非常に楽しいも

のでした。

初めは、まったく韓国語ができず、苦勞することも沢山ありましたが、多くの人々がそんな私を助けてくれました。特にランゲージコネクションという地域の人々が参加する会話クラブで知り合った人々には大変お世話になりました。毎週木曜日に日本語テーブルで日本語で会話をして下さり、2次会では、韓国の酒文化など色々なことを教わりました。また、さまざまな年代層の方と出会い、一緒に旅行をしたりなど、私が、韓国に行く前に想像していた1年間よりも充実し、本当に楽しい1年間でした。現地であつた日本人の方とも韓国について語り合ったりなど大変お世話になりました。

また、私が韓国留学で強く感じたことは、メディアのあり方についてです。韓国に関して、あまり良いイメージのない報道がたくさんあり、そのようなものを小さい頃か自然と見聞きしていると、無意識に悪い印象しか持たなくなるのではないかと思います。韓国でも同様に、日本に関して良い報道は少なく、それを見ていると、自然と日本の政治などが疑わしく見える自分がいることに気づきました。実際に韓国に住めば、反日活動をしている人なんてごくわずかだと思いました。多くの方は、外国である日本にさほど関心もないのではないかと思います。情報の受け手として偏った情報だけを受け取らないように心掛けなければと思いました。

もう一つ、感じたことは、やはり挑戦してみるということです。韓国に行く前にはほとんどできなかった韓国語も今では簡単な会話等ができるまでになりました。自分が直観的に良いなと感じたことは、自分を信じて最後までやり通すことが必要だと思います。私の韓国語はまだまだなのでこれからも勉強を続けていきたいと思います。そして、この経験が今後の人生に生きてくると確信しています。迷う暇があれば行動する実行力こそが今回の1年間で非常に大切だと感じたことです。